

1 自己評価及び外部評価結果 (2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000167		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ豊田 2F		
所在地	愛知県豊田市美里2丁目5-3		
自己評価作成日	平成22年 1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年 8月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2393000167&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように日々の行事を大切に、入居者様とスタッフが1つの家族として笑顔あふれるマイホームを目指して日々の生活が穏やかに過ごしていただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

度重なる経営母体の変更や職員の異動があり、ホーム運営にも少なからず影響(運営推進会議の未実施等)が出ている。管理者は、「笑顔あふれるマイホーム」をホームの理念として、職員が一丸となって利用者を支援する職場づくりを目指している。
 地域との交流が本格化したわけではないが、硬い殻がやっと破れたという状況である。散歩の途中の挨拶や、善意で届く花や新聞紙が地域との交流の大きな立役者になるかもしれない。
 困難な状況下ではあったが、一つ、またひとつと、改善を進めてきた甲斐あって、家族の信頼は大きなものがある。家族アンケートには、称賛や励ましの言葉とともに、前向きな建設的な意見が寄せられている。とりもなおさず、ホームへの期待の現れであろう。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念、ホーム独自の理念を提示し日々心に刻みケアにあたるように心がけている。	度重なる経営母体の変更があっても、ホームの理念を変えることなく「笑顔あふれるマイホーム」と定めて取り組んでいる。	利用者のためのマイホームが、職員、家族を巻き込み、地域の住民にまで広がること期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方と挨拶を心がけている。ホームの前を通行する方々と花壇や畑の手入れなど気軽に話し掛けている。新聞紙・お花をホームに届けてくれる近隣の方もいる。	近隣の住民の協力で、新聞紙がたくさん集まるようになった。散歩の途中では、話しかけられることもある。ただ、地域の人が、ホームの中にまで入ってくる機会は少ない。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの見学、介護保険・介護認定など問い合わせに随時対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフ・入居者様・家族と話し合いをしている。	経営母体の変更等で、説明のために家族に集まってもらう機会はあったが、運営推進会議という形態は定着していない。	市の実地監査での指導事項でもあるが、定められた会議メンバーを選任し、運営推進会議の定期的な開催が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会に出席している。必要に応じて行政への相談をしている。	市の主催する連絡会議に出席することで、必要な情報を得ている。この会を通じて、市内の他ホームの管理者とも面識ができてきた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフと話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜PM20時から翌朝6時30分までは防犯上施錠している。	ホーム前面の道路は交通量が激しいが、極力玄関には鍵をかけないケアに努めている。法人の方針でもあるが、利用者に対する言葉遣いに関しても、十分な注意がはらわれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	さりげない言葉・行動で虐待になることもある為スタッフとお互い声かけしながら気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に積極的に参加している。また理解を得るよう話し合いをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に時間を設け、充分説明の上納得頂き契約書の取り交わしをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月第3木曜日に介護相談員の受け入れをしている。入居者様・ご家族様の意見や不満をその都度聞き改善出来るようにスタッフと話し合いをしている。本社にお客様相談窓口を設置しており苦情、意見は随時拠点に報告され対応している。	家族がホームを訪れる機会が多く、良好なコミュニケーションが構築されている。献身的な職員のケアに対して、「わがままは聞かなくてもいい」との家族の言葉もあった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日報告・連絡・相談がないか、スタッフに聞いている。ホーム会議を月1回開き、会社からの報告・連絡をしスタッフからの意見・提案を聞いている。	職員の異動があり、なかなかホーム一丸の支援体制がとれるところまでまとまりきれない。職員間の情報の共有化が図れていない点を、家族から指摘されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H21年10月1日よりニチイ学館と合併し給与水準が以前より改善された。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。個々の力量に合わせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H22年1月23日に、豊田グループホーム懇談会を開催し、同業者の方と交流が出来た。次回は、4月に行うことが決まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と、よく向き合いお話しを伺うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話しを伺い困っていること、不安なこと又要望などを伺って信頼していただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・スタッフを含め話し合いの場を設けご本人と向き合い必要な支援を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてお話しを伺い、入居者様の得意とすることを積極的に行っていただけるように心掛けている。また入居者様から、お手伝いすることはないですか？と声を掛けてくださる方もみえます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にお茶などでおもてなしをしてご家族様と入居者様・スタッフとお話しをしたり、昔の話しをお聞きしている。ご家族様と一緒に誕生日をお祝いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可を得て、ご友人・知人の訪問を受け入れている。入居者様が馴染みの地域の敬老会に出席している。	かつての職場の友人が利用者を訪ねてくる。利用者はその友人を特定できず、友人は寂しい思いを持って帰っていくが、それでも度々ホームに足を運んでくれる。	このような関係が途切れないようにするには、ホームの支援(配慮)が重要になる。友人に対するフォローアップをお願いしたい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、関わり合える様な場を作っている。入居者様が孤立しないようにスタッフが配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院などの場合は、出来るだけお見舞いに伺うように心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意向を把握するように努めている。カンファレンスを開き話し合いをしている。	日々のケアの中で知りえた情報(過去の生活歴、思い、意向)を、カンファレンスの場で話し合っている。職員の記憶に頼ることが多く、記録として蓄積する仕組みはない。	その人固有の思いや意向を介護計画に取り上げるため(個別ケアの実践)には、聞き取った情報を記録に残しておくことも必要となる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の生活の中で、入居者様同士またご家族様とお話しの中でお聞きし把握するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人声かけ、見守りをして今どんな状況を把握するよう努めている。一人一人の生活リズムを大切にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に毎月1回カンファレンスを開催し意見交換をしている。入居者様、ご家族様からの希望・要望についても共有しその都度意見交換して介護計画を作成している。	前回評価では、介護計画とケアの現場との乖離が顕著であったが、改善に向けての取り組みが行われた。利用者本位の計画を作成しようとの意識が感じられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、申し送りをしスタッフ間で共有している。特に伝えておかなければいけないことは、管理日誌に記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期入所・通所介護のサービスは現在実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りの会・本の読み聞かせなどのボランティアさんに訪問いただき入居者様には大変喜ばれている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との連携により実施している。	ホームの提携医へは、基本的には通院して健康管理をしている。ほとんどの場合、管理者が付き添いをするため、家族からの信頼は得られているが、反面ホーム運営上でのデメリットとなっている。	訪問調査当日も、利用者の急変があつて管理者が救急車に同乗して病院へと向かった。医療面での対応や仕組み作りに関して、再考の機会がほしい。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の看護師に相談をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室を、定期的に訪問し情報交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じてご家族様と提携医と十分な話し合いをし方針を決定するよう努めている。	加齢や認知症の進行とともに、ホームで対応できる終末期のケアの限界を見極めようとしている。職員の中には不安を持っているものも少なくない。	医療行為の必要がなく、本人、家族、医療機関相互の意見の一致があり、職員の介護力量が備わって初めて終末期ケアのスタートラインに立つこととなる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議時に、急変や事故発生時に備えスタッフに話しをしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。また昼夜の状況に応じた避難訓練を入居者様と実施している。	消防署立ち会いのもとに避難訓練を実施した。2階の車いす利用者を避難させる訓練に力を入れた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重して、声かけ・対応等を行っている。	経営母体は変わっても、利用者本位の基本姿勢は変化がなく、利用者一人一人のプライバシーに配慮したケアを行っている。記録類に関しても、実名記載は少なく、イニシャルで記載されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをしコミュニケーションをとり、入居者様のお話を聞き自己決定出来るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のお話を聞きご自身のペースで1日1日を過ごしていただくようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝入居者様に、声かけし服を選んでいただいている。外出時は、ご家族様にお話ししてご自宅にある服を持って来ていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時ご家族様と入居者様に、好きな食べ物・嫌いな食べ物をお聞きしており、お誕生日会は好きな物を作って皆様でお祝いしている。入居者様の好みで、お粥や刻みにしている。スタッフと買い物から、調理まで一緒に楽しく行っている。	毎年、訪問調査日に合わせてイベント食が披露される。流しそうめん(3年前)、五平餅(一昨年)、三色おはぎ(昨年)に続き、今年は焼きそばとお寿司の共演であった。食欲がなかった利用者もお替わりをする勢いである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録に記入し、入居者様の状態を把握している。また栄養面では、献立表を作りお肉・お魚・野菜などバランスよく摂取出来るように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・見守り・介助等で、口腔ケアし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で記録しており、入居者様の状態を把握している。声かけ・誘導により、トイレでの排泄がスムーズに出来る。	排泄自立に向けた取り組みと併せ、利用者を不快な気持ちにさせないことにも留意したケアを行っている。トイレ誘導を拒否する利用者に無理強いしたり、気持ちを傷つけるような言葉遣いをしないような指導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれた食品を取り入れ、食事・おやつを提供したり、水分を摂取出来るように適度な散歩・運動を・体操をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしており、一人一人声かけし菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用しゆっくり入浴していただいている。	お風呂は毎日立てているが、ほとんどの利用者が一日置の入浴である。失禁があったり、特別に汗をかいたりしたときには、適宜シャワー浴が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日に布団を干し、シーツを洗い清潔にし気持ちよく睡眠できるようにしている。常にベットを整えいつでも休養できるように配慮しており居室内の温度調節をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を確認し薬についての理解を深め服薬の支援を行い症状の変化には気をつけている。服薬後の確認もしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味・得意なことを入居時に聞いて把握し、レクリエーション・調理等で力を発揮できる場面を作りをしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添いながら、散歩・買い物・喫茶店に行ったり、路線バスを利用しお祭り見物に行っている。	散歩や買い物が日常的な外出であるが、年に2回のホーム(フロアー)のワックスがけの日には、遠出外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のリスクとそれに伴うトラブル回避のため個々に所持することはご遠慮いただいている。ただし、外出時などお小遣いとして持参し好きな物を購入できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要があればホーム内の電話を使用することもあるが、ほとんどがかかってくる電話で対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除しているが、トイレ・洗面所は使用ごとに掃除し清潔に保ち気持ちよく使用できるようにしている。季節に、応じた花を玄関・居室・ホールに飾っている。	ホームのそこかしこにさりげなく花が活けてある。ホールの大型テレビでは冬季オリンピックのフィギュア・スケートが中継されており、利用者が大きな声援を送っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は自由に利用でき思い思いの場所で過ごすことが出来、入居者様がお互いのお部屋を訪ねたりしている。毎月ずらん新聞を掲示しているので、行事や日々の生活風景を写真にとりつけている為皆様で見て楽しく会話している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	べっと・家具は馴染みの物を使っている。配置も家族と入居者様で相談している。居室に花や鉢を飾り水遣りを楽しんでいる入居者様も見える。	利用者が昼間はホールで過ごしているせいも、居室には馴染みの品の持ち込み量の少ない利用者もいる。定番の家族の写真は、ほとんどの居室に見られる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安全に過ごすことが出来るように見守り、声かけをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果 (1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000167		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ豊田 1F		
所在地	愛知県豊田市美里2丁目5-3		
自己評価作成日	平成22年 1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年 8月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2393000167&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように日々の行事を大切に、入居者様とスタッフが1つの家族として笑顔あふれるマイホームを目指して日々の生活が穏やかに過ごしていただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>会社の理念、ホーム独自の理念を提示し日々心に刻みケアにあたるように心がけている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の方と挨拶を心がけている。ホームの前を通行する方々と花壇や畑の手入れなど気軽に話し掛けている。新聞紙・お花をホームに届けてくれる近隣の方もいる。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近隣の方からの見学、介護保険・介護認定など問い合わせに随時対応している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>スタッフ・入居者様・家族と話し合いをしている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>グループホーム連絡協議会に出席している。必要に応じて行政への相談をしている。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>スタッフと話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜PM20時から翌朝6時30分までは防犯上施錠している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>さりげない言葉・行動で虐待になることもある為スタッフとお互い声かけしながら気を付けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に積極的に参加している。また理解を得るよう話し合いをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に時間を設け、充分説明の上納得頂き契約書の取り交わしをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月第3木曜日に介護相談員の受け入れをしている。入居者様・ご家族様の意見や不満をその都度聞き改善出来るようにスタッフと話し合いをしている。本社にお客様相談窓口を設置しており苦情、意見は随時拠点に報告され対応している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日報告・連絡・相談がないか、スタッフに聞いている。ホーム会議を月1回開き、会社からの報告・連絡をしスタッフからの意見・提案を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H21年10月1日よりニチイ学館と合併し給与水準が以前より改善された。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。個々の力量に合わせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H22年1月23日に、豊田グループホーム懇談会を開催し、同業者の方と交流が出来た。次回は、4月に行うことが決まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と、よく向き合いお話しを伺うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話しを伺い困っていること、不安なこと又要望などを伺って信頼していただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・スタッフを含め話し合いの場を設けご本人と向き合い必要な支援を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてお話しを伺い、入居者様の得意とすることを積極的に行っていただけるように心掛けている。また入居者様から、お手伝いすることはないですか？と声を掛けてくださる方もみえます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にお茶などでおもてなしをしてご家族様と入居者様・スタッフとお話しをしたり、昔の話しをお聞きしている。ご家族様と一緒に誕生日をお祝いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可を得て、ご友人・知人の訪問を受け入れている。入居者様が馴染みの地域の敬老会に出席している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、関わり合える様な場を作っている。入居者様が孤立しないようにスタッフが配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院などの場合は、出来るだけお見舞いに伺うように心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	私の暮らし方シートを活用したり、一人一人に声かけをし、思いを聞いている。カンファレンスで希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の生活史シートを活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人声かけ、見守りをして今どんな状況を把握するよう努めている。一人一人の生活リズムを大切にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを毎月1回開催し、意見を出し合っている。家族とも要望などを聞き、話し合っている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、申し送りをしスタッフ間で共有している。特に伝えておかなければいけないことは、管理日誌に記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期入所・通所介護のサービスは現在実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りの会・本の読み聞かせなどのボランティアさんに訪問いただき入居者様には大変喜ばれている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との連携により実施している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の看護師に相談をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室を、定期的に訪問し情報交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じてご家族様と提携医と十分な話し合いをし方針を決定するよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議時に、急変や事故発生時に備えスタッフに話しをしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。また昼夜の状況に応じた避難訓練を入居者様と実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者様と距離をおいて声を掛けたり、時には居室へ行って対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを多く持ち、話をよく聞くことで、思いや希望を聞き出すようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いて、できる限り対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝入居者に、声かけし服を選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時ご家族様と入居者様に、好きな食べ物・嫌いな食べ物をお聞きしており、お誕生日会は好きな物を作って皆様でお祝いしている。スタッフと一緒に準備をすることで、より毎日の食事を楽しめるようにしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録に記入し、入居者様の状態を把握している。また栄養面では、献立表を作りお肉・お魚・野菜などバランスよく摂取出来るように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・見守り・介助等で、口腔ケアし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で記録しており、入居者様の状態を把握している。声かけ・誘導により、トイレでの排泄がスムーズに出来る。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれた食品を取り入れ、食事・おやつを提供したり、水分を摂取出来るように適度な散歩・運動を・体操をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるかぎり希望にそった入浴が出来るようにしている。また曹蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用しゆっくり入浴していただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日に布団を干し、シーツを洗い清潔にし気持ちよく睡眠できるようにしている。いつでも居室で横になって休めるように居室の環境を整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を確認し薬についての理解に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理せず楽しみながらレクリエーション・食事の準備等できることをすることで、はりのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声かけをし、希望により散歩に出かけたりしている。行きたいところを検討して、家族にも声をかけ、遠出を何度かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のリスクとそれに伴うトラブル回避のため個々に所持することはご遠慮いただいている。ただし、外出時などお小遣いとして持参し好きな物を購入できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用していないが、ご本人の意向を伝えたり、郵便物は本人に直接渡している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日がさして眩しい時はカーテンを閉めたり、こまめな温度調整をしたり、音も調整し居心地の良い空間を作っている。季節感のあるものを取り入れて飾っている。トイレもこまめに確認し清潔にしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は自由に利用でき思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は馴染みの物・使い慣れた物を持ってきていただいている。配置も家族と入居者様で相談している。居室に花や鉢を飾り水遣りを楽しんでいる入居者様もみえる。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや出入り口にスロープをつけて、車椅子に対応して、スペースを広く作っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流ができていない。	地域の方々が気軽に立ち寄り、利用者と交流がもてるようにしていきたい。	”ほほえみサロン”を週に何日かもうけ、地域の方々が気軽に立ち寄れる場をつくっていく。 ”ほほえみサロン”の看板やポスターを玄関等に掲示し、散歩時等にご近所の方々に告知していく。	6ヶ月
2	2	”	”	将来的には、たくさんの方々に来ていただけるような祭事もしていきたいと考えている。	12ヶ月
3	48	個々の趣味や得意なことをレクリエーションにとりあげて行っているが片寄ってしまっている。	個々の趣味・得意な事をレクリエーション時だけにとり入れるのではなく、利用者がやりたい時に自由に行えるようにしていきたい。	個々の趣味・得意な事をスタッフ全員で把握し、多くの事に挑戦して はりのある生活ができるように支援していきたい。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。